

日田市新清掃センターの建設計画

建設・運営の手法、災害対策を質問

大谷市議は市議会一般質問で、新清掃センターの建設や運営の手法、災害対策等について、建設検討委員会での協議の状況を質問しました。部長は「公設公営、公設民営、民設民営（PFI）の方式の中から検討している」と答弁しました。

現在の日田市清掃センターは公設公営（管理を一部委託）で運営しています。新清掃センターはどの手法で建設・運営するかの検討状況について質問。市民環境部長は「基本方針、施設規模、ゴミ処理方式、公害防止目標、建設運営の事業手法など検討している」また「環境省

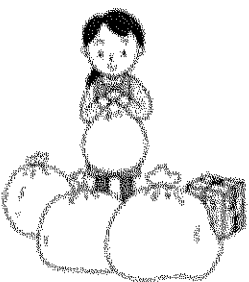


の手引きや国の交付金申請の時に、PFI方式の検討結果が必要になるので、PFI導入の可能性を検討している」と答弁。大谷市議は建設場所公募の際に、関係者を案内した「熊本県山鹿市のゴミ処理施設はどの方法か」と質問。部長は「市が建設し、長期の運営を民間に委託する方式」と答弁しました。

大谷市議は「施設の運営を民間と長期運営の契約で行う」とリスクもある。メリット・デメリットを市民や議会に説明するのか」と質問に部長は説明すると述べました。長期の運営権を民間業者に



山田町は平成29年に豪雨で大変な災害を受けました。災害対策の検討についても質問。部長は「大規模な施設になるので、豪雨対策など関係機関と協議していく」と答弁しました。



高齢者の熱中症対策

エアコンがない世帯に設置の補助制度を

近年夏場の猛暑日は、異常気象の関係で増加の一方です。日田市は全国でも猛暑日の多さは全国1位を続けています。コロナ禍で自粛が呼びかけられ、暑いときは体力を消耗し、命の危険があります。

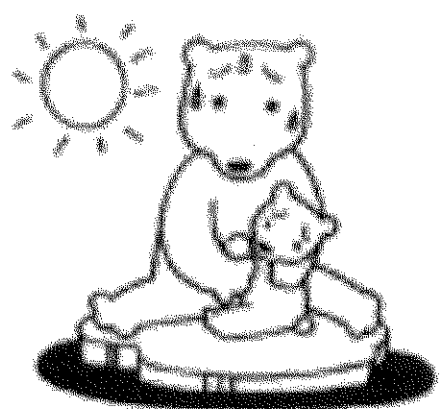
大谷市議は「高齢で低所得者や非課税世帯でエアコンがないが、又は故障している世帯には、エアコンを設置をする補助制度が全国でも広がっている。市も整備したらどうか。」と質問しました。

消防本部の集計では、令和2年度の市内の熱中症かまたはその疑いの救急搬送は62件で、その内高齢者は71%と述べ、制度については「県内では由布市が

65歳以上で、世帯全員が市民税非課税、その他いくつかの条件があるが、今年4月から6月を申請期間として実施している」と答弁しました。

部長「まずは実態把握」

「高温多湿の本市では熱中症発症リスクの高い地域であるので課題ととらえているが、高齢者世帯のエアコンの設置状況の実態が掴めていない。まずは実態把握につとめたい」と部長は答弁しました。引き続き制度の実施を求めていきます。



福祉保健部長は「日田玖珠